

一期会例会

栃木PR奮闘記IN香港－那須バージョン－〔解説文〕

日時 平成22年4月20日

場所 大田原温泉ホテル龍城苑

スライド1

- ・本日は御担当の橋本測量の橋本社長さんから、「栃木PR奮闘記IN香港」というテーマを頂戴しています。
- ・私が県の香港駐在員をしていましたのは2002年度から04年度まで、日本の元号に直しますと平成14年度から16年度までの3年間ということで随分昔の話になりますが、ジェットロ香港センター内に設置された中では初代の駐在員になります。また駐在期間中に下野新聞の経済面で、「県香港駐在リポート」という連載を28回ほどやらせていただきました。
- ・そこで皆様のお手元にはその連載記事に加筆修正して発行した「アジアの臍から－香港駐在リポート－」という単行本を置かせていただいています。本日はそうした内容を基に“よもやま話”的なお話をさせていただきたいと思います。

スライド2：齋藤淳一郎のプロフィール

- ・私は高校時代の3年間は大高に通っていました。また県庁に入ってから4年間は大田原土木事務所に勤務していました。
- ・大田原土木では用地部で、大田原市内では国道461号の奥沢バイパス、旧西那須野町では国道400号の大田原西那須野バイパス、旧黒磯市ですと現在のイオン前の主要地方道西那須野那須線を担当していました。
- ・加えて私自身は矢板生まれの矢板育ちですが、父親が大田原の佐久山出身で、さらには橋本社長さんとは大高14回の同級生という関係もありまして、本日もお声掛け頂いたという経緯もあります。
- ・このように那須地域にも多少の土地勘もありますので、本日は「那須バージョン」という副題を勝手に付けさせていただきました。アジアと那須地域を結び付けるような内容については、特に時間を割いて御説明したいと思います。

スライド3：“アジアの臍”香港の概要

- ・まずは香港の概要について簡単にお話ししたいと思います。
- ・単行本のタイトルにもしましたが、香港という都市は、地理的にも経済社会的にも“アジアの臍”というべき位置にあります。
- ・香港は1997年にイギリスから中国に返還されています。現在の正式名称は「中華人民共和国香港特別行政区」といって、「1国2制度」のモデルとして高度の自治権が保障されています。
- ・中国本土と香港は、依然として「別の国」だとお考えいただきたいと思います。中国本土では「人民元」という通貨が使われていますが、香港では「香港ドル」が流通してい

ます。また中国本土と香港の往来にはパスポートも必要です。

- ・香港の面積は栃木県の6分の1ほどですが、栃木県の約3.5倍にあたる703万人もの人口を抱えています。
- ・30,755ドルという1人当たりGDPは、38,000ドルを超える日本には敵いませんが、韓国の1.5倍、台湾の2倍弱、そして中国本土の10倍弱の水準にあります。アジア地域の中では群を抜いて経済的に豊かな地域といえます。
- ・言語については中国語と英語が使われていますが、日常生活では中国語の方言である広東語が幅広く通用しています。

スライド5：栃木県香港駐在員事務所の概要

- ・県香港駐在員事務所の正式名称は「日本貿易振興機構（ジェトロ）香港センター栃木県部」といいます。私はジェトロ東京本部への派遣を経て、2002年4月の事務所開設に合わせて赴任し、3年間勤務しました。
- ・県では私の前にも4代に渡って、足利銀行の香港駐在員事務所に職員を派遣していました。そこから数えると私は5代目になります。ちなみに初代は旧西那須野町にお住まいの高野昌之さんは西那須野町の町長をされていた高野三郎さんの息子さんで、現在県北県民センターの所長をお務めになっています。
- ・管轄地域は東アジア、東南アジア全域となっていますが、実際には香港及び中国本土、台湾での活動が中心になっています。
- ・香港域外の出張回数を数えてみると3年間で116泊194日になりました。その中で圧倒的に多かった出張先は中国本土の97泊167日でした。これは当時の日本経済の「中国シフト」を反映したものといえます。
- ・スタッフはスライド6の右側の写真にあるように県からの派遣者は1人だけで、このほかに現地でアシスタントを1名採用しています。私も20代で赴任しましたが「所長」の名刺を持って活動していました。
- ・業務内容は4つあります。「栃木県関係企業の海外展開支援」「外国観光客の栃木県への誘致」「栃木県産品の海外での販路拡大」「栃木県とアジア地域との国際（経済）交流の推進」の4つです。これらの業務について具体的に御紹介することで、本日のテーマにお応えしていきたいと思います。

スライド7：業務内容①栃木県関係企業の海外展開支援

- ・まず業務内容の①として「栃木県関係企業の海外展開支援」について御説明します。
- ・県では県内企業（県内に本社等がある企業）の国際化を支援するためのデータを集めるために、毎年「栃木県国際経済交流調査」という調査を実施しています。
- ・直近の調査結果では、県内企業は201カ所の海外事業所を設けていることが分かりましたがその実に4分の3がアジア地域に立地しています。
- ・こうした例を見るまでもなく地域経済の国際化は着実に進行しています。しかし栃木県内には、本来そうした取組を支援すべきジェトロの国内事務所が設置されていません。そこで県が県内企業の国際化に全面的に取り組んでいく必要があるわけです。
- ・具体的な業務についてですが、貿易、投資情報の提供のほかに、各種の便宜供与も行っ

ています。

- ・私が駐在していた2003年上半期は、中国本土や香港で新型肺炎（SARS）の感染が急速に拡大した時期でしたが、その時期に県香港事務所が中国に進出している県内企業に対してSARS関連情報を提供したことについて大変な御好評をいただきました。
- ・そしてこのような情報提供の取組がきっかけになって、栃木県関係者のネットワークづくりのために私の駐在期間中に香港、中国広東省を中心とする「華南栃木県企業人会」、上海、江蘇省、浙江省を中心とする「華東栃木県企業人会」が相次いで設立されました。
- ・スライド8の左側の写真は、2004年10月に設立された「華東栃木県企業人会」発足式の様子です。そして右側の写真は、同じく2004年11月に県と県の海外経済交流協議会が実施した中国投資環境ミッションの様子です。
- ・このミッションは県内企業や経済団体から参加者を一般公募して実施したものです。県香港事務所はこのミッションの実施にあたり、日程の作成から始まり、訪問先のアポイント取付けや下見のほか、当日のアテンドも行いました。
- ・このミッションではやはり中国華東地域を回り、中国進出に成功している県内企業3社－浙江省杭州の岩下食品、江蘇省無錫の大日光・エンジニアリング、そして上海近郊の江蘇省昆山に進出している旧栃木富士産業（現在のGKNドライブラインジャパン）の3社－を訪問させていただきました。
- ・写真は江蘇省の無錫に進出した大日光・エンジニアリングの現地法人を訪問した時の様子です。判別しにくいと思いますが、真ん中の白髪頭の方が、ミッションの団長をお願いした県商工会議所連合会会長で、福田屋百貨店会長の築郁夫さんです。

スライド9：中国で活躍する那須地域の企業・企業人

- ・ここでは「中国で活躍する那須地域の企業・企業人」というコーナーを設けてみました。代表的な企業、企業人を1社（者）ずつ御紹介します。
- ・左側の写真は香港に隣接する広東省深圳に進出している(株)タイコーデバイスの中国法人、「泰康電子（深圳）有限公司」の建屋です。皆様御承知のとおりタイコーデバイスは自動車のモーター制御に必要なリレー（継電器）を製造していますが、大田原では「全自動」で生産しているのに対して、この中国法人では安い労働力を利用して「手組み」で生産しています。なおタイコーデバイスは、香港にもオフィスを構えています。
- ・右側の写真の右から2人目の方は、大田原出身で福原工業の社長をお務めになっていた小河原寧さんです。小河原さんは1994年に深圳東洋旺和実業有限公司という合作会社の設立に参加され、当時は日本企業の副会長にあたる副董事長をお務めになっていました。私の帰国後「副」が取れて董事長に御昇任されたと伺っています。
- ・この合作会社ですが中国が不動産を現物で出資し、外資が設備や技術を提供するという形態です。ヘッダー、成形、メッキ、プレス、組立といった多様な業務にあたっています。従業員は私がお伺いした時には1,300人だったと記憶していますが、日本の中小企業の中国進出の成功例といえるかと思います。
- ・また、先ほどのタイコーデバイスは、この深圳東洋旺和の成功例に学んで中国進出してきたという経過もあり、深圳東洋旺和の本工場と泰康電子（深圳）はすぐ近くの場所にあります。このように中国ビジネスの経験が豊富な小河原さんには、2004年2月に設立

された華南栃木県企業人会の世話人をお願いし、県内企業の国際化に力をお貸しいただいています。

スライド 10：業務内容②外国人観光客の栃木県への誘致

- ・続いて業務内容の②として、「外国人観光客の栃木県への誘致」について御説明します。
- ・現在日本では「観光立国」を目指して、私が駐在していた 2003 年から、2010 年までに訪日外国人客数を年間 1,000 万人に増やすことを目標とした「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を推進しています。
- ・2009 年の訪日外国人客数は、世界的な景気後退局面や新型インフルエンザの感染拡大の影響もあって 679 万人にとどまり、2010 年の 1,000 万人達成は困難な状況ですが、政府は経済成長著しいアジア地域からの誘客を念頭に、将来的には 3,000 万人の訪日外国人客数を目指す新たな目標を設定しているところです。
- ・栃木県については 2003 年 12 月の足利銀行の破綻・一時国有化をきっかけとして、特に鬼怒川・川治温泉の再生のために外国人観光客を誘致しようと動きが活発化し始めました。2004 年 6 月に旧藤原町が国から認定を受けた「地域再生計画」でも外国人観光客の誘致が盛り込まれています。
- ・この外国人観光客の誘致にあたり、県香港事務所では旅行見本市への出展や商談会の開催支援のほか、旅行業者、マスコミ関係者の招聘事業にも取り組んできました。
- ・スライド 10 を御覧いただきたいと思います。左側の写真は香港一の繁華街である銅鑼灣（コーズウェイ・ベイ）にあるショッピングセンター、タイムズスクエアで、「日本旅遊節（JapanTravelFestival）」というイベントが開催された時の模様です。
- ・このようなイベントへの出展は一般の市民をターゲットとしていますが、県香港事務所では現地の旅行エージェントをターゲットとした取組も支援しています。右側の写真はそうした旅行エージェントとの商談風景です。2004 年 9 月に県が実施した“台湾ミッション”での一コマです。
- ・こちらを向いて熱心に商談しているのは、日光東照宮近くの「東観荘」という旅館の支配人です。今年の 2 月にたまたまお会いする機会がありましたが、「おかげさまで香港、台湾からのお客さんが随分増えました」と、感謝の言葉を頂戴したところです。

スライド 12 香港紙で紹介された那須地域の観光スポット

- ・スライド 12 は私が帰国してからの内容になりますが、2008 年に実施した台湾マスコミ招聘事業の成果の一部です。
- ・このマスコミ招聘事業はマスコミ関係者の招聘に必要な経費を負担する代わりに、取材内容を新聞や雑誌の記事にってもらうことを目的としています。新聞に一面広告を出す場合と比較した場合、必要経費を遥かに上回る経済効果があり、また、あくまでも海外の目線で、日本の観光魅力を切り取ってもらえることから、現在、外国人観光客の誘致に積極的な自治体が盛んに実施しています。
- ・なお、私の香港駐在当時、那須地域における観光客誘致で有望なのは、福島空港を利用した韓国人観光客の誘致だと考えていました。

- ・福島空港からはソウルと上海に国際線が飛んでいますが、このうち福島県では韓国人ゴルファーの誘致に力を入れています。韓国ではゴルフ人口の増加にゴルフ場の整備が追いついていないことから、日本でゴルフを楽しみたいという人が少なくないとのことです。そこで福島県では福島空港と県内ゴルフ場の利用促進という一石二鳥を狙い、ゴルフパッケージ商品のPRに乗り出しています。
- ・そこで福島空港から距離的に近い那須地域、特に「ゴルフの街づくり」を掲げる大田原市にとっても同様な取組が期待されるかと思います。私は帰国間際の2005年3月に韓国に出張した際に、日本国際観光振興機構（JNTO）のソウル事務所で情報収集した時には、既に当時の千保市長さんが韓国に見えてPRしていったという話も聞いたことがあります。
- ・最近の動向については承知していませんが、恐らくリーマンショック以降の世界的な景気後退局面と「円高・ウォン安」で韓国人ゴルファーの誘致は苦戦していると思いますし、韓国資本が経営難に苦しむ福島県内のゴルフ場を買収するという動きも出てきているように聞いています。
- ・そこで栃木県としてはJNTOソウル事務所長の受け売りになりますが、温泉やスキー場といった観光資源を総動員して、「日中はお父さんはゴルフ、お母さんと子どもは雪遊び。夜は仲良く温泉」といった家族ツアーを提案していくと良いと思います。なお、韓国ではゴルフ場だけでなく、スキー人口の増加に見合うスキー場の整備も進んでいないとのことです。

スライド13：業務内容③栃木県産品の海外での販路拡大

- ・業務内容の③、「栃木県産品の海外での販路拡大」についてお話しいたします。
- ・小泉政権の頃から「攻めの農政」ということが盛んに言われるようになりました。その中で農産物の輸出についても、2005年3月に、2009年までに輸出額を倍増することが決定されました。
- ・本県ではそうした動きを先取りする形で、2004年度から県産農産物、具体的にはイチゴの「とちおとめ」、ナシの「にっこり」の輸出に取り組み始めました。初めての輸出先は県の事務所がある香港ということで、私が香港にある「シティ・スーパー」との連絡調整にあたることになりました。
- ・「シティ・スーパー」は、1996年に香港にあった西武百貨店の日本人スタッフが立ち上げました。東京北青山の「紀ノ国屋」をイメージさせるような高級志向といわれています。私はこの「紀ノ国屋」に行ったことがないので「紀ノ国屋」の雰囲気は良く分かりませんが、那須地域で言えば「モノは良いけれど、値段はちょっと高い」という「三枘屋」をイメージしていただければと思います。
- ・なお、この「シティ・スーパー」は、香港の3店舗のほか台湾にも出店していますが、日本からの仕入れは東京にある日本法人「シティ・スーパー・ジャパン」が行っていますので、商品の日本国内での引き渡しと日本円での決済が可能となっています。
- ・スライド14の写真はナシの“にっこり”の輸出を巡る取組についてです。まず2004年の7月に私が一時帰国した際に「シティ・スーパー」のバイヤーを栃木県内に案内しました。そこで写真にもあるように、ナシ農家を実際に訪れてもらうとともに、価格や決

済方法、輸送方法などについて詰めの協議を行いました。

- ・その結果、同年の11月下旬から本県産の「にっこり」が、香港に初上陸することになりました。「スマイリング・ピア」「巨型微笑梨」というネーミングで、右側の写真にあるように売り子が試食を勧めながら販売したところ、1週間で60ケースを売り切りました。販売価格は当時の為替レートで780円～910円でした。
- ・日持ちすることが特徴の「にっこり」については、贈答需要の高まるクリスマスから2月上旬の旧正月にかけて追加発注が相次ぎました。
- ・その後も輸出額は徐々に増加しているようで、2006年度は276万円、07年度は405万円、そして08年度は515万円の売上げがあったと報告されています。そして輸出先も香港だけでなく、台湾やシンガポール、タイといったアジア全域に広がっているとのこと。

スライド15 那須地域の蔵元が、香港で銘酒をPR

- ・ここでは「那須地域の蔵元が、香港で銘酒をPR」というコーナーを設けてみました。
- ・皆様も御存知の湯津上の天鷹酒造さんと小川の白相酒造さんが、香港で開催された日本酒の試飲会に揃って出展したというトピックスです。
- ・左側の写真には天鷹の尾崎社長さんが写っています。天鷹の銘柄は私が赴任する前から香港で小売りされていましたが、ジェトロ香港センターのネットワークを通じて“試飲会”を開催するなどして、一層の販路拡大のお手伝いをしていました。
- ・天鷹の銘柄は香港では幾つかの日本食料理店でも口にすることができますし、香港だけではなく台湾でも小売りされているほか、アメリカへの輸出実績も豊富とのこと。
- ・右側の写真は白相酒造の白相社長さんです。白相酒造さんの本格的なプロモーションはこの時が初めてだったと思いますが、白相さんはお若い時に外務省の外郭団体に勤務されており、イギリスと南アフリカ共和国での駐在経験もあるということで英語が堪能でした。この時も通訳抜きで香港のバイヤーと突っ込んだ商談をされていました。
- ・この時プロモーションしていた「とちあかね」は、イチゴの花から分離した花酵母で醸造した日本酒ですので、生食のイチゴと合わせた売り込みなどすればおもしろいのではないかと思いました。
- ・他に香港では那須烏山市の「島崎酒造」やさくら市の「仙禽酒造」、さらには佐野市の「第一酒造」といった蔵元が輸出に取り組んでいます。
- ・このほか香港で話題になった那須地域にゆかりのある食品としては、2002年9月に香港の高級スーパー「グレイト」が開催した「ジャパン・テイスト・グレイト」という食品フェアへの出品がきっかけで、香港紙8紙に紹介されたパン・アキモトの「パンの缶詰」や、香港人が盛んに祝う「中秋節」と時期が重なったことから注目を浴びた月を連想させるケーキ菓子「那須の月」などが挙げられます。
- ・また、日中国正常化30周年を記念して香港で開催された「日本祭」では、とちぎ県産品振興協会の推薦で、黒羽産のお茶の試飲を実施したこともありました。

スライド16 業務内容④栃木県とアジア地域との国際（経済）交流の促進

- ・最後の「栃木県とアジア地域の国際（経済）交流の推進」については、簡単に御説明したいと思います。

- ・栃木県は、1993年から上海に隣接する浙江省と友好提携関係にあります。友好提携関係が10周年を迎えた2003年には相互の代表団が栃木県と浙江省を訪問し、友好交流の一層の促進について確認し合ったところです。
- ・具体的にはこれまでの友好交流から経済交流にも踏み込もうということで、2002年9月には私が浙江省の貿易投資部局である対外貿易経済合作庁を訪問し、その糸口を掴んできたところです。
- ・その成果の一つに先ほど御紹介した「栃木県投資環境調査ミッション」の浙江省訪問があります。浙江省ではこの対外貿易経済合作庁のほか、日本の産業団地にあたる経済開発区を訪問することができました。
- ・右側の写真はジェトロが上海で開催した「対日投資セミナー」で、私が下手な中国語でスピーチしているシーンです。
- ・現在、外国企業の誘致が日本経済を再生させる方策として注目されています。また海外の優秀な人材の呼び込みや技術移転は、日本の国内産業を活性化させることが期待されています。そこで県香港事務所としても本県の投資環境を紹介するとともに、宇都宮市にある「とちぎ産業交流センター」のPRを通じて、本県に関心のある企業を発掘するためにこの上海で開催されたセミナーに参加しました。

スライド17・18 一期会 少しマジメな・・・香港 2泊3日視察旅行日程 (案)

- ・ここでは本日の主催者のどなたからも頼まれたわけではありませんが、「百聞は一見にしかず」ということで、本日おいでの皆様を対象にした香港視察旅行の日程を提案させていただきます。
- ・本来であれば日本から香港への旅行は3泊4日以上が普通ですが、皆様お忙しいと思いますので2泊3日の日程を組ませていただきました。
- ・できるだけお金をかけないことに心がけました。また訪問先のアポイント取付けや当日のアテンドの一部は、県の香港事務所が対応させていただくことが可能です。
- ・初日は午前便を利用して香港に向かっていただきます。成田からは香港への所要時間は4時間30分から5時間程度ですが、日本と香港との間には時差が1時間あります。
- ・ホテルは可能であれば香港島サイドに取っていただいて、夕方、ジェトロ香港センターとその中に設置されている県香港事務所においていただき、香港の概要についてレクチャーを受けていただければと思います。
- ・そして夕食後は香港島サイドにあるビクトリアピークの「百万ドルの夜景」を御覧いただきます。本日の資料の1枚目にはビクトリアピークからの眺めを掲載しましたが、ここからの夜景を見ていただくこととなります。
- ・2日目の午前中の一部は企業訪問に充てていただきたいと思います。参加者が多い場合には、皆様の業種や興味関心に合わせて幾つかのグループに分けて実施しても良いと思います。
- ・ちなみに先ほど御紹介したタイコーデバイスや深圳東洋旺和の香港事務所は、香港島と反対側の九龍半島側のフェリーターミナルのすぐ近くにありまますので、香港島から九龍半島への移動については、タクシーや地下鉄を使わずに観光がてら、香港名物の「スターフェリー」を御利用いただきたいと思います。

- ・昼食を摂っていただいた後は香港市内視察という名の観光を楽しんでいただきますが、その途中に免税店ではなく先ほど御紹介した「シティ・スーパー」などに立ち寄りいただき、日本産農産物、食品の販売状況を御覧いただければと思います。
- ・夕方からはジェットフェリーに乗船していただき、マカオに向かっています。そこで夕食後、ラスベガスの規模を上回ったといわれるマカオのカジノに挑戦していただきたいと思います。
- ・3日目は帰るだけです。午前便で香港を発って、午後に成田着、栃木着は夕刻になりますが、帰りが深夜になっても良いという方は香港発を午後便に変更して、午前中は香港市内で観光していただくことも可能です。ただし、この場合にはマロニエ号の利用が難しくなります。

スライド 19 県内経済国際化の必要性は、「人口減少に伴う国内市場の縮小にあり」

- ・私が頂戴したお時間も残りわずかとなりました。ここで県香港事務所が取り組んでいる一連の県内経済国際化の取組について、その必要性を述べさせていただきます。
- ・私が考えますに、県内経済国際化の必要性は「人口減少による国内市場の縮小」にあると思います。日本の総人口は2050年には9,200万人から1億800万人くらいまで減少するとされています。栃木県においても既に前回の国勢調査において人口減少傾向が明らかになりました。2050年の人口は現在の201万人から170万人まで減少するという予測も出ています。
- ・世界第2の経済大国である日本をした下支えしてきたのは、実はこれまで増加し続けてきた世界第10位の人口が形成する巨大な市場だといわれてきましたが、こうした人口減少傾向は、栃木県にとって特に観光客誘致や農産物の販売にとって最大のマーケットだった首都圏でも避けて通ることができません。
- ・製造業種の海外移転も一昔前の安い労働力を求めてということではなく、海外市場での販路拡大を目的とするケースが増えてきていると思います。このように縮小する国内市場に代えて、少なくともその縮小分をカバーする取組が欠かせないと思います。
- ・こうした時代認識のもと栃木県も、県内経済の国際化に一層力を入れていかなくてはなりませんし、特に経済成長著しいアジア地域で栃木をPRしていく必要性を感じています。これをもちまして私のお話を終わらせていただきます。御清聴ありがとうございました。